

実証概要

設定した解決したい課題

◎児童養護施設

- ・紙の領収書を見ながら手打ちで項目の仕分け・請求書の作成を行っているため、項目や金額の記載ミスが発生している
- ・大量の領収書を請求書と合わせて郵送しているため、印刷・封入・郵送にかかる金銭的・時間的コストがかかっている

◎愛知県

- ・請求書と領収書を紙でチェックするため、措置費支払い確定までに時間がかかる
- ・修正依頼を担当者のメールや電話で行っているため、修正結果の反映にかかる時間が読みづらい

解決の方向性（実証事業者との協議結果）

- 項目や金額の記載よりも書類の収集に対する負担軽減・効率化にフォーカスした運用フローを構築する
- 愛知県の申請内容のチェックについては、freee会計のもつ機能を活用することで、費目ごとの合計金額の確認工数を削減する

<検証項目・KPI>

- ・ 県担当者の審査に要する時間の削減（現状値： 51分 目標：現状値以下）
- ・ 県担当者の審査業務に対する満足度（現状値： 34点 目標：60点）
- ・ 施設担当者の申請に要する時間の削減（現状値：145分 目標：現状値以下）
- ・ 施設担当者の申請業務に対する満足度（現状値： 56点 目標：60点）

Before



請求書や領収書を紙で確認しており、負担が大きくなっていた

After



システム上での申請・確認をすることで、申請・審査フェーズの所要時間を削減

試行運用の概要

<方法> freee会計を活用した運用フローに則り、県内の児童養護施設2施設にて措置費を申請、児童家庭課にて審査・承認までを実行する

<期間> 2025年 10月～11月

<評価> アンケートおよびヒアリング等を用いて、システム利用による時間や負担感の軽減度合いを把握

工夫したポイント

- ✓ <ポイント1：既存の様式の構成を変えない形で申請フローを構築>
- ✓ <ポイント2：freee会計への書類のアップロードに加えて、各書類ごとに費目を記載したタグをつけるフローを導入>
- ✓ <ポイント3：チャット機能を活用した、修正対応依頼>

実証実験の評価及びKPIの結果

- ✓ システムを活用した申請により、県担当者による審査時間には一定程度の削減効果があることを確認
- ✓ 実証実験参加者からは、いずれも「システム面で大きな問題はない」との意見を得た
- ✓ 児童養護施設から、手順の変更による負担感等が示されたものの、システムの使いやすさや中長期的には負担の削減効果につながるなど好意的な意見もあった
- ✓ さらなる負担削減のために、システムのUI改善や学校などから受領する書類収集のデジタル化などが挙げられた

<検証項目・KPIに関する結果>

- ・ 県担当者の審査に要する時間の削減 : 51分 → 40分 (-11分。削減率 21.6%)
- ・ 県担当者の審査業務に対する満足度 : 34点 → 50点 (+16点。改善率 47.1%)
- ・ 施設担当者の申請に要する時間の削減 : 145分 → 105分 (-40分。削減率 27.6%)
- ・ 施設担当者の申請業務に対する満足度 : 56点 → 65点 (+9点。改善率 16.1%)

導入に向けての課題と解決策

- ✓ チャットのメール通知には気が付いたが、メールを開いてからシステム画面に遷移するまでの挙動がわかりにくかったという意見があった。これに対しては、中長期的にシステム改善の検討を行う。
- ✓ アップロードした書類の整理を直感的にしづかったため、県担当者のチェック漏れが心配という声があった。システム改善を検討しつつ、既存機能を活用した整理方法を今後検討することで、チェック漏れを防止することが可能と考える。
- ✓ 本実証実験で対象外としていたが、本業務において大きな負担となる請求書の審査をデジタル化することで更なる効率化が期待できる。中長期的にfreee会計上の申請データをデジタル上で愛知県の会計システムと連携させる仕組みができるとなおよいと考える。

システム画面イメージ



証憑データの一覧化機能を用いて、申請内容の確認を効率化

愛知県および児童養護施設とのやり取りはチャットコミュニケーションに一元化